2010年9月7日　日朝学生友好ネットワーク交流会報告書

メディア学科4年・大原優紀

2010年9月7日同志社大学今出川校地新町キャンパスで、朝鮮大学校生と関東の大学生で構成される日朝学生友好ネットワーク（以下ネットワーク）と浅野健一ゼミの交流会が行われた。ネットワークとの交流は、浅野ゼミが社会学部の教育ＧＰ企画として2010年1月に朝鮮大学を訪問して以来2回目である。

午後2時に、ネットワークの参加者学生11名と朝鮮大学校の宋修日（ソン・スイル）先生が到着した。まず、今出川キャンパスに向かい、尹東柱と鄭芝溶の詩碑を訪れた。パンフレットや同大の朝鮮語講師である藤井幸之助先生の話から尹東柱について学び、その後記念写真を撮り、日朝の友好促進を願った。

その後、大学を案内しながら新町キャンパス臨光館210教室へ向かった。ここで、各先生方および、ネットワーク、院生、４回ゼミ、３回ゼミの研究発表または活動報告を約10分ずつ行った。

ネットワークの曹賢順（チョウ・ヒョンスン）さんの活動報告では、2002年9月17日に日朝平壌宣言が調印されたが、それ以降友好的な発展がみられなかったためにネットワークを発足させた、という会の成り立ちや、関東大震災の東京で、在日朝鮮人や中国人を保護した東漸寺を訪れたフィールドワークについて説明があった。前日にネットワークの方々の話し合いを聞いたが、「共生」とは何かという議題になっていた。在日朝鮮人は、今まで被害者の意識を強く持ってきたという。しかしテレビなどでは、2002年9月に発覚した「拉致」問題以降、「朝鮮人＝加害者」という面だけが取り上げられるようになった。お互いを知ることで、「何か」を作り上げよう、と一所懸命に模索している同年代の学生たちの姿は、私たちにとって大きな刺激になった。

その後、６人ずつ４グループに分かれて、意見交換を行った。私のグループには、朝鮮大学の学生２人、ネットワークの日本人学生１人、浅野ゼミの学生２人と藤井先生が集まった。そこでは将来について考えていることなどを話し合った。朝鮮大学校の学生たちは、将来は在日朝鮮人のために働きたい、と考えている人が多い。朝鮮学校の「高校無償化適用除外」が問題になっている中で、自分のアイデンティティーについて勉強することを、在日朝鮮人の学生たちがいかに大切に思っているかを聞くことができ、考えが深まった。

５時半より場所を大学近くの「おもの里」に移し、関西で活動している「日朝友好学生の会」のメンバーを加えて懇親会を行った。ここでは全員が自己紹介をした後、食事をしながら会話を楽しんだ。

２回目の交流会ということもあり、前回よりも個人の考えに触れる深い交流会を行うことができたと思っている。しかし、今回の交流会で、考えが似ているもの同士の交流会は、難しくない、ということに気付いた。在日朝鮮人の学生が感じているように、多数の日本人は、朝鮮人に対して無意識下、意識下で嫌悪を感じている。そのような人たちと交流会を持ち、友好に前進することができるようになれば幸いである。折しも京都地方裁判所では、学校法人京都朝鮮学園を原告、在日特権を許さない市民の会などを被告とする「街頭宣伝差し止め等請求事件」の第１回口頭弁論回を控えていた。真っ向から対立する立場の言い分に、日本社会がどのように反応し、裁判所がどのような判決を下すのか、しっかりと見ていかなくてはいけないと感じた。

写真１　尹東柱の詩碑の前で

写真２　グループに分かれ、意見交換

写真３　意見交換②

写真３　意見交換③